

(抜粋)

長久手町都市計画マスタープラン

平成 2 2 年 3 月

長 久 手 町

◇自然交流拠点

- ・平成こども塾丸太の家周辺を自然交流拠点として位置づけ、子どもたちの体験学習機能や自然との交流・ふれあい機能等の維持・充実を図る。

■ 土地利用ゾーニング

○市街地

◇住居系土地利用（住居ゾーン・住商複合ゾーン・住工共存ゾーン）

- ・市街化区域内のリニモ駅周辺等の利便性が高い地域については、「駅前居住」を支える住宅地としての土地利用を誘導する。その他の地区については、幹線道路沿道は中層系を中心に、その後背地は低層系を中心とした住宅地としての土地利用を誘導する。
- ・市街化区域北西部においてこれまで住工が混在していた地区では、都市基盤整備等により良好な住宅地として土地利用を誘導する。
- ・市街化区域内の(都) 青少年公園線及び(都) 高根線の沿道については、自動車でのアクセス利便性を生かした沿道型商業地としての土地利用を進める。
- ・長久手古戦場駅以外のリニモ駅周辺や幹線道路主要交差点周辺については、生活に密着した日常的な商品等を扱う商業施設等の立地を誘導する。
- ・東名高速道路沿道（北側）については、住宅と工場等が共存する現在の土地利用を維持する。

◇工業系土地利用（業務ゾーン・研究開発ゾーン・研究開発企業誘導ゾーン）

- ・長久手古戦場駅南東の既存研究施設については、本町の重要な研究開発地区として、その土地利用を継続する。
- ・東名高速道路沿道（南側）については、インターチェンジへ近接した立地条件を生かした業務地としての土地利用を誘導する。
- ・大草丘陵北縁地区については、瀬戸市の企業立地状況及び周辺の自然環境への影響等を考慮しつつ研究開発企業等の立地を誘導する。

○新市街地（住宅誘導ゾーン）

- ・公園西駅周辺及びシンボル・コア北側については、リニモへの近接性を生かしつつ、周辺に広がる緑地空間等に配慮し、家庭菜園を備えるなどゆとりある住宅地や自然環境と共生した住宅地及び住民の暮らしを支えるとともに、リニモ利用者向けの生活利便施設等を中心とした土地利用を誘導する。

■将来都市構造図

